

理番号 J0105753
送番号 061722
送日 平成19年 2月13日

拒絶理由通知書

特許出願の番号	特願2004-031048
起案日	平成19年 2月 5日
特許庁審査官	山崎 利直 2932 4F00
特許出願人代理人	上柳 雅登(外 2名) 様
適用条文	第29条第1項、第29条第2項、第36条

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から60日以内に意見書を提出して下さい。

理 由

理由1) この出願は、発明の詳細な説明の記載が下記の点で、特許法第36条4項及び第6項第2号に規定する要件を満たしていない。

理由2) この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前に日本国内又は外において、頒布された下記の刊行物に記載された発明又は電気通信回線を通じ公衆に利用可能となった発明であるから、特許法第29条第1項第3号に該当し、特許を受けることができない。

理由3) この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前に日本国内又は外において、頒布された下記の刊行物に記載された発明又は電気通信回線を通じ公衆に利用可能となった発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

記 (引用文献等については引用文献等一覧参照)

由1について

請求項1乃至13に対して

請求項1乃至13に記載の発明は、「パターンの形成方法」や「パターンの形成装置」についての発明であるが、そのパターンとして発明の詳細な説明に記載されているのは線状の態様のみであり、それ以外の態様については記載されていない。また、線状以外の態様については「一方の側部」や「他方の側部」がどの分を意味するのか不明である。

請求項4には「配置条件」との記載があるが、これには「配置間隔」、「液滴体積」の他にどのような条件が含まれるのか正確に理解することができない。

請求項9は「パターン形成装置」に係る発明であるが、「中央部を形成した後、一方及び側部を形成する」というパターンを形成する方法による特定が形成装置の機能や構造をどのように特定するのか理解することができない。

由2及び3について

請求項9に対して：引用文献1

引用文献1には、パターン形成に用いる基板製造装置が記載されている。引用文献1には、「中央部を形成した後、一方及び側部を形成する」というパターン形成方法については記載されていないものの、引用文献1に記載の基板製造装置が液滴の配置を調整する機能を有している以上、請求項9に係る発明のパターン形成装置と何ら機能や構造が相違するものではない。

由3について

請求項1乃至8、10乃至13に対して：引用文献1及び2

引用文献1には、「膜パターンの中央部を形成する第1工程」、「一方の側部を形成する第2工程」、「他方の側部を形成する第3工程」について記載されて

ないものの、例えば引用文献2にも記載されているように、塗膜の性能や機能向上すべくパターン形成方法を設定することは、当業者が通常の試行錯誤によって想到し得るものである。

引用文献等一覧

特開平11-204529号公報
特開2000-094755号公報

先行技術文献調査結果の記録

調査した分野 I P C第8版 B05D1/00-7/26
B41J1/00-35/38
B41M5/00-5/10
G03C3/00
G03F7/00-7/42
B05B1/00-3/18
B05B7/00-9/08
B05C7/00-21/00
H01J11/00-17/64
H01L21/00-21/46
H05K1/00-13/08
G02B5/00-5/32

先行技術文献

特開平11-274671号公報
特開2002-164635号公報
特開平10-312743号公報
特開2006-034837号公報
特開2000-296357号公報

この先行技術文献調査結果の記録は、拒絶理由を構成するものではない。

この拒絶理由通知の内容に関するお問い合わせ、または面接のご希望がございましたら下記までご連絡下さい。

特許審査第三部 プラスチック工学 山崎 利直
TEL. 03(3581)1101 内線3472-3474 FAX. 03(3501)0698